

平成30年度 第1回 印西市社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 平成30年6月27日(水)
午後2時から午後4時まで
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
- 3 出席委員 伊東委員、関根委員、長尾委員、恩田委員、川村委員、鈴木委員、
河村委員、菊地委員、桜井委員、小林委員、小岩委員、松崎委員、
篠原委員、平石委員
- 4 欠席委員 三城委員、石川委員
- 5 事務局の出席 飯島課長、関口係長、坂巻係長、五十嵐主査
- 6 内容 議事
(1) 社会教育・生涯学習関連事業について
(2) 文化財保護・活用・芸術関連事業について
(3) 社会教育関係団体の実態調査について
(4) その他について
- 7 会議録

事務局

ただいまより「平成30年度第1回社会教育委員会議」を開会いたします。
なお、本会議におきまして、印西市市民参加条例施行規則第12条及び第13条の規定に基づき会議公開に伴う傍聴席の設置と会議録作成のため、録音機材を設置して録音させていただきますことをご了承願います。
はじめに、委嘱書の交付をさせていただきます。お名前をお呼びしますので、その場で、ご起立をお願いします。

(委嘱書交付 印旛明誠高等学校 長尾 正利)

次に、議長よりご挨拶を申し上げます。

(挨拶)

ありがとうございました。

次に、会議録の署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は名簿順で行うこととし、5番の 川村委員にお願いしたいと思っておりますが、皆様いかがでしょうか。

(全員異議なし)

それでは、川村委員にお願いいたします。

それでは、議事に入ります。ここからの議事進行につきましては、桜井議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

桜井議長　それでは、議事の（１）と（２）については関連がございますので、１括して審議を行いたいと思います。
事務局より説明をお願いします。

事務局　社会教育・生涯学習関連事業について資料に基づき説明。

事務局　文化財保護・活用・芸術関連事業について資料に基づき説明。

桜井議長　以上、議事の（１）と（２）説明が終了いたしました。
何か質問等がございましたらお願いいたします。

小林委員　説明のあった資料と別紙配布されております、印西市教育振興基本計の見方がよくわからないのですが、説明があった社会教育生涯学習関連事業という中で、まず大項目Ⅱ-1になっていますよね。Ⅱ-1というのは、Ⅰ-1がどこにあるのかなという、感じたところから始まるんですが。

事務局　最初に説明すればよかったんですけども、印西市教育振興基本計画の８ページをご覧くださいてもよろしいですか。
中ほどに、基本目標Ⅱで、「生涯を通して学び、スポーツに親しめる環境作りを推進する」その下に施策Ⅱ-1「年齢にとらわれずにいきいきと暮らすための生涯学習活動」があります施策のタイトルを書いて、その下に「生涯学習情報の充実」「多様な学習機会を提供」という、主な取り組みがありこの順番で説明いたしました。最初にこちらと併せて説明すべきでございました。計画のⅡ-1ということで、ここには書かせていただきました。

小林委員　すると、ベースがこれですね。印西市の教育振興基本計画がベースで、その中のⅡ-1から説明しましたよということですね。

事務局　前回、計画がどの部分に反映されているか分からないということでしたので、こちらの計画をベースにして、説明させていただきましたが言葉足らずですみませんでした。

小林委員　分かりました。ありがとうございました。

桜井議長　先程言いましたが、本年度からこの新しい計画に沿って事業を進めていくということになりました。他にご意見はありますか。

篠原委員　２つお願いします。リーディング施策関連事業について意識しながらご提案いただいたこと、とても分かりやすくてよかったと思います。

1つはとても細かいことなんですけれども、5ページの収集・公開事業についてなんですけれども、市内の収集整理を行うにあたって、今まであった市内の小学校のものを1カ所にあったものとか、郷土資料の空き教室にあったものなんかみんなもう資料館にまとめてあるんですかね。

事務局 小学校の資料を収集しているというのは、市内の小学校に限らず、古いお宅に残されているものなどを収集しております。それを、例えば小学校の授業等で活用していただくということで記載しているので、小学校のものとは限りません。

篠原委員 小学校のものや、郷土資料のものとかもそこにあるんですね。

事務局 こちらに関しましては、市の教育委員会が収集したものを貸し出すような形で going on. 特に、ニュータウンにできた新しい学校からの要望が多く、もともとあった学校につきましては、先ほど篠原委員からお話がありましたとおり、すでに保管しておりますので、古い学校については、そのような形で社会の学習に活用していただき、あとは新しい学校については、教育委員会の資料を使って、社会の授業に活用していただいているという状況でございます。

篠原委員 歴史民俗資料館に全部まとめておいてあるのですか。

事務局 印旛地区のものにつきましては、印旛歴史民俗資料館でございます。また七畝割資料保管庫にもございます。どこにでも貸し出せるような形ではあります。

篠原委員 ありがとうございます。2つ目、後援申請に関わることを側面から支援するというふうに7ページにあります。私たちも使うときに、会場使用料の減免はしていただいているのですが、その他に何か具体的に側面から支援などはございますか。

事務局 団体の事業のチラシやポスター等に、印西市教育委員会後援と入れたり、小中学校等にチラシを配布等するときにお手伝い等をさせていただいております。

篠原委員 教育委員会は、後援した事業について見に行くということはしていただけますか。

事務局 できる範囲で見学等をしております。

篠原委員 ありがとうございます。

桜井議長 他に何かございますか。

小岩委員 こちらの資料の2ページに、1番上に地域ぐるみの「さわコミ」というんですか、推進事業の充実というのがあり、さわやかコミュニティの地域推進委

員会の設置と活動とありますが、この中で印旛中学校区と、印西中学校区はまだないんですが、これを立ち上げるというか、こういうことに参加するのは、私たちの役目なんではないかな。どういうふうはこの6地区が出来ていて、現在組織が無い地区があるのはどうしてそのあたりの経緯も分かりません。

川村委員 以前は全地区あったはずですが。それがだんだんなくなって、現在は6地区になっています。

小岩委員 私が委員になってからはもうなかったのが消滅しちゃったということですか。

事務局 この事業につきましては、平成8年から、当初は県の事業で始めたんですが、そのとき、1番多くて印西中学校区と原山中学校区が入っていました。印西中学校区については、運営が難しいということで、消滅しました。原山中学校区につきましては、サザンプラザというのがありまして、そちらがありますので、活動や運営自体が重なるので、そちらと統合するような形で、さわコミの活動も一緒にしていくような仕組みになっております。ご指摘のとおり、現在の地区ということでなかなか増やすのが難しい状況になっています。なんとか地域との共同による学校支援とか、そういうものを進めていきたいところですが、やはりその中心となるのは学校ということになりますので、中学校区、もしくはそこに関連した小学校区といろいろ協議しながら今後は設立というような形で進めていきたいと考えております。さわコミという、概念にとらわれずに、その地区に合うような支援、できるシステム、そういうものから作ればよいのではないかと考えています。こちらの事業に関しましては、今後努力していきたいと思っております。

桜井議長 他にありますか。

鈴木委員 現在関連して、やっているのはPTAということですか。

事務局 PTAも含まれますその他に、地区の防犯組合の方や、交通指導員、高齢者クラブ、青少年相談員の方も入っているところもございます。特に誰というわけではなく協力できる方に集まっていたいただいて事業を展開しております。

桜井議長 伊東委員この件に関しましてご意見ございますか。

伊東委員 木川中学校区で昨年の事例の紹介ということで、今のお話で主体になっているのはやっぱり学校ではあるんですね。学校の教頭が事務局になって、そこから先程の民生委員さんや、おやじの会など、そういうPTAとか全部含めて、その諸団体の方を集めていただいて、子どもたちのために何ができるか、安全で健やかに過ごせるのに何ができるかということ、1点にすり寄せて話し合うというのがまず1つあります。

具体的に木刈中で昨年度取り組んだのは、あいさつ運動。あいさつを通して子どもたちを健全育成していこうということで、それをどうして進めていくかということで、その看板を作って通学路に設置したり、あいさつに出てきていただいたりとかする方もたくさんいらっしゃいました。

もう一つは講演活動ということで、中学校の中で、いろいろな著名人を呼んでそこで講演活動、お話を聴いてやっていくなど、また安全のことに関して、中学生が地域の方と一緒にあって、自分たちの安全、通学路の安全確保だったり、あいさつのことについてワークショップで話し合うということを経年3回ぐらいは行っています。

桜井議長

ありがとうございました。具体的な例を挙げていただいたので、大変よく分かりました。

関根委員

原山中学校区は、今ここにはないんですが、サザンプラザがあるので、そこを中心にいろいろな催し物を、中学校、小学校が協力してやったりしています。今度評議委員会もあり、総会も開催しさらには賀詞交歓会とか、いろいろな形で、懇親会もあるんですけれども、さわコミでやっている内容よりも充実した活動をしてございます。文化祭的なこともやって、去年は市長さんも踊りに来ていただきました。

原山中学校の吹奏楽部が演奏に出て、いろいろな取り組みをし、関わりを持っていただいております、原山中学校区では、サザンプラザの後援の中に子どもたちも含まれております。

桜井議長

ありがとうございました。要するに、子どもたちを地域とか、各団体をみんな育てていこうというのが趣旨だと思います。たぶん印西中学校区でも、それに代わる何かがあると思うんですけれども、ちょっと私は分からなかったんですけれど。

ほかになれば、1番と2番、生涯学習、文化財保護、文化芸術に関して、この計画にのっとった実施をよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、3番目の社会教育関係団体の実施調査についてという議事に入りますけれども、これは特に決めるということではありません。会議の始まりにおわび申し上げたいんですけれども、5月17日に開催予定でした勉強会ですが、私の都合により延期とさせていただきます、誠に申し訳ありませんでした。特に、出席を予定されていた方には深くおわび申し上げます。

改めて、今回議題に載せていただきましたが、特に決めるということではなくて、屈託のない皆さんのご意見のほうを出していただきたいと思ひます。資料の8ページになりますが、今回のテーマであります、社会教育関係団体の実態調査ということで、前回の会議で決めさせていただいたんですけれども、われわれが実行する上で、社会教育関係団体というのは定義としてどうあるべきか、どういふのを社会教育関係団体というかというのを、まず皆さんで意思統一してから始めたほうがいいかなということで事務局の方にお尋ねしたら、先ほど別紙で配られていました、印西市社会教育関係団体の認定基準に関する規定というものがあるとすね。この説明を簡単に事務局が

らお願いいたします。

事務局

印西市では社会教育関係団体の認定基準に関する規定ということで、お手元に配布しました資料を見ていただきたいんですけども、認定の要件といたしましては、第2条、「社会教育関係団体として認定することのできる団体は、社会教育法第10条が規定する団体であって、次のかっこに掲げる要件を備えたものとする」。

下に5つ挙げていますが、1、社会教育に関する事業を計画的かつ継続的に実施でき、その事業の成果が十分に期待できるものであること、2、規約を有すること、3、一定基準の会員数を有し、役員が選出されていること、4、自己財源を有し、かつ団体の運営が確実になされていること、5、事務所を市内に有し、かつ主たる活動の場所が市内であること。こういった団体の要件を備えた団体で、社会教育法の10条では、「社会教育関係団体の定義」ということで、「この法律で『社会教育関係団体』とは、法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいう。」となっており、このような団体で、いま申し上げました5つの条件を満たして申請していただけたら、教育委員会で活動状況を1年ぐらい見させていただき、その後社会教育関係団体として認定する団体にふさわしいということであれば、社会教育会議に諮り、皆さまにご意見を伺い、よろしいんじゃないでしょうかということであれば、そのあと認定ということで、社会教育関係団体として認定する手続きになります。

桜井議長

ありがとうございました。定義といたしますか、あるべき姿のほうを頭にちょっと入れておいて、2番目なんですけれども、ではどういう団体があるのかということ、生涯学習文化・芸術関連団体が現在39団体あります。

でも、ちょっと見たら、青少年育成とか、女性の会は入っていないなど思ったんですけども、事前に配布された9ページの資料だと30団体になっているんですね。この違いは何かと思って前回お聞きしたら、例えば芸術文化協会の中には、華道協会や舞踊連盟、囲碁連合会、茶道連盟などをまとめたものが9ページに30団体となっているということでした。

この39団体に対して、昨年度、この教育振興計画を作る際に委員会で、すでに団体に対してアンケート調査を行っています。その結果が、皆さんに配布してありますので資料の概要というのを見ていただきますと、その結果が載っています。

21ページで、生涯学習、文化芸術ですと、11団体と共通で2団体に対してアンケート調査をした結果が載ってまして、その資料の22ページでまとめられているのがあります。1番多かったのが会員の減少だとか、次が新しい会員のメンバー、要するに構成するメンバーの高齢化が進んでいるということや市民や地域の活動情報の提供に関することなど結果が出ています。8ページの資料に私は書きましたが、この基本計画や、関係団体意向調査の結果を踏まえて理解し、もう1度この関係団体に対して調査を実施すべき必要があるんじゃないのかなと思います。

そこで提案ですが、結果が既に出てしまっていると、われわれがまた調査して

も、恐らく25ページのほうに同じように会員の減少や、新メンバーの参加状況が出ておりますが、実態調査を行った上で、同じような結果が出てくるんじゃないかなというのが、ちょっと心配になりました。

もしやるとしたらこの調査結果を踏まえた上で、次の段階のことをやってあげないと、各団体にはまたアンケートなり調査に来て、前回やったのはどうなっているんだとか聞かれてしまうのではないかと思います。

例えばわれわれのメンバーの中にも川村委員の青少年相談員、鈴木委員の子ども会育成連絡協議会、三城委員の文化芸術の団体の方がおられるので、そこに絞って、今、実態はどうなっているかだとか、他市町村の活動はどうだったとか、目標を絞ってやったほうがいいのかというふうに思えてきたものですから、そのへんのご意見を皆さんのほうからいただきたいなと思います。

39団体全部に、調査をするのだったら別途検討しないといけないと思うんですけれども、1度やっているところにもう1回行くというのも安易かなと思うんですが、いかがでしょうか。

この結果に対しては、教育振興計画の中で、市としては推進体制を作って、PDCAをまわしながら先ほどのリーディング施策もそうなんですけれども、実施していきますからということで、われわれはそれを見る役目はあると思います。

例えば、青少年相談員の活動で、今、実態でこういうことでどうだろうかというのを挙げていただいて、例えば、学校の先生方もいらっしゃるし、青少年相談員の事業では7月にキャンプですとか、年明け1月末に長縄跳びを実施したりとても子どもとの関わり合いを深くやられていると思います。ただ、それが本当に全部やっているかということ、そうじゃないところもあれば、先程のさわコミじゃないですが、青少年を育成していますというところがありますので、ある程度絞った、メンバーのおられるところでやってみるのもいいかなと、思い始めてきました。青少事業をわれわれが見てもいいかなと思います。8ページにまた戻りますけれども、日程表では7月中に調査方法の決定をして、8月から11月にかけては実施をして、12月から1月にまとめて、2月に文書化して、3月に提出というような大きい流れになってます。

あと1つ提案があって、本日の議題のその他で、事務局の方から説明があると思うんですけれども、来年度は郡の振興大会が印西市が幹事になります。それが、先ほどお配りいただいた、印旛郡市社会教育振興大会の当番表というのがあるんですけれども、31年度は、会長は佐倉市、副会長は成田市、で、振興大会の幹事が印西市になっています。

今年度は八街市が幹事となり8月25日に行われます。委員の皆さんも参加していただきたいと思いますが、1年前ぐらいから準備して、テーマを決めなくてはなりません。

来年度、皆さん、半分以上の方は継続して委員になられると思うんですけれども、来年はちょっとメインになって、事務局の方と一緒にやっていかなきゃいけないんですね。

簡単にちょっとその他のところで説明していただこうと思ったんですけれども、事務局から、今年度の八街市の現況を踏まえまして説明をお願いします。

事務局

委員の皆様方には既にご案内してご存知かと思いますが、本年度は八街市が会場であり事務局幹事になっております。こちらの振興大会につきましては、輪番制で実施してます。お手元の資料にもありますが、来年度印西市が会場地となり事務局幹事になってございます。八街市の事務局にお聞きしましたところ、1年前から準備に取り掛かっていまして、具体的にはテーマの設定や、講師の選定など社会教育委員会議で協議し準備を行ってまいりました。今回は2020年にオリンピックが開催することから、オリンピックにちなんだ講師を八街市さんは選定してございます。振興大会の事業予算につきましては、印社連事業費で運営しております。8月の振興大会にご参加されます委員の皆様には、どうか来年度は印西市で開催しますので、主催者側に立ってご覧いただけたらと思います。

来年度の開催の準備につきましては、今後の社会教育委員会議を通じて委員の皆様方と協議して進めてまいりたいと思います。

桜井議長

説明していただいたように、主題テーマをまず決めないといけないんですね。それに沿った趣旨だとかも考えて、それに沿った講師を決めて実施するときにはいろいろな役割があります。それを来年のテーマにしてもいいんですけども、それだとちょっと間に合わないの、今年度から少しずつ準備を進めて協議して行きたいと思っております。

いわゆる印西市の社会教育委員会の技量が試させられるというのはちょっとおおげさかもしれませんが、それだけの役割があるということをご理解いただければと思います。

今、3点ほど提案させていただきました。1つ目が、要するに従来どおり、やっぱりそうはいつでも最初に決めた実態調査をやるべきだというご意見と、あと2つ目が、関係団体全体だとあまりにも幅広くなってしまうので、このメンバーでおられる方の、女性の会等も含めて絞って実態調査をやって、ほかの市町村の実施状況なども調べてみるというのが2つ目です。3つ目が、今、説明しました、来年度の印西市での開催する振興大会の準備等を今から検討していく、3つのことで提案させていただきたいと思っております。皆様のご意見いかがでしょうか。

小林委員

この調査の結果は結構出ていると思うんですね。ただ、私はいろいろなサークル活動をやっている上で、これに出たこない細かいやつがあるんですね。具体的には、パソコン同好会に入って今やっているんですけど、その中で設備的にコンピューターに接続できない事があります。

それはなぜかという、Wi-Fiが使えるようになっていこうと思うんですけども、集会所の中に入っちゃうと電波が来ません。それで公民館の人に聞くと、Wi-Fiの機能というのは災害とか、そういうときのためにあるので、そういう集会室の中に入ったあとで使えるというのは、念頭にないというんですよ。

それに対して、われわれは、ちょっとどこかの部屋の1つに通信機能を持つものが必要じゃないの。作ってくださいというのは言っていますけれども、そういう具体的な要望というのはこれにはないんですよ。

だから、どこまで下ろすかによって違うと思うんですね。例えば、公民館のサークル活動の中まで入って行って、具体的な要望を取り出すということになると、また

違うデータが出てくると思うんですよね。ただ、これはちょっと大きすぎて、大きいけど、結構、ちゃんと書いてあるんですよね。市内にどのような団体があるか、その団体間で情報を交換したいとかね、そういうノウハウを、同じようなところのノウハウを教えてほしいとかね、そういうの、結構、あることはあるんです。

だから、そういう意味で、再調査して、具体的な案を作るというのも1つあると思います。

菊地委員 小林委員さんが言われたような実態調査と、実態調査1、2がメンバーの中から絞るといふ、それは2つ関連しているので、大きな団体で、いま現在困っていること、いま言われたみたい具体例というのかな、大きな悩みを挙げていただくというのが、それはそれで1つの課題として、3の来年に向けての振興大会を進めていく事を重点的にやった方がいいと思います。

桜井議長 ほかにご意見いかがでしょうか。

鈴木委員 お声をいただいたんですけれども、メジャーな団体よりも、ずっとこう見ていて、「え、これって何やっているんだろう」とか、「この中身は何だろう」といふのは、やっぱり何団体かあります。そういう団体ってどうなのかなって、ちょっと自分では思うんですけれども、皆さんは、例えば子ども会って何やっているか、青少年さんは何をやっているのか、それはお分かりになっていると思うんですよ。それぞれ悩みはもちろんあるんですけれども、その団体の中の悩みって、うちも全国会議に行っても同じ悩みが出てきます。でも、解決策ってなかなか見付からないんですよ。それを皆さんに、じゃあ提示して、どうですかって、ご意見いただけるのかなというの、印西市の考え方があるとは思いますが、そうではなくて、この団体はと思う団体は、皆さんはないんですか。

それから、本日野外活動協会さんの認定取り消しというのを頂きましたけれども、そうすると29団体になりますね。

事務局 そうです。

桜井議長 他にご意見ありますか。

平石委員 西の原地区では、おやじの会というのをやって、西の原小学校が活動の場なんですけれども、子どもたちや、保護者を集めたりして、バーベキュー大会や、大きなイベントとは夕涼み会で、保護者、子どもたち、総勢650名ぐらい集まります。私はこのお話を聞いて、私たちもこれに登録したら補助をいただけるのかなと思いました。有志でやっているの、こういうところに登録してしまうと仕事が増えそうで、現状でいいのかなと思っています。

桜井議長 そうすると、今、鈴木さんのご意見にあったように、他の団体がどういう活動をしているのかなという興味は皆さんありますか。

- 川村委員 それはあります。子どもたちを育成するという意味では、いろいろなところと共有していったほうが、いいのかなと思います。、小さい地域で印西市というカテゴリーの中で、みんなで協力していく事はとても大事です。
- 鈴木委員 例えば青少年相談員、私たちの子ども会などは、前から言っていますが横のつながりを持てば一緒にできるんですよね。防犯関係でもそうですが。みんな横のつながりができたら全然違うじゃないですか。そういう目を、縦はできているんだから、横に目を向けてくださいと申し上げているのはそういうことなんです。
- 桜井議長 基本計画概要の23ページに、例えば生涯学習だと、仕組みや取り組みへのアイデアとして、真ん中あたりに、市内にどのような団体があるか分からない他の団体に協力を求めたいこと、各団体で提供できるノウハウなどの情報交換をする場がない事や共有できる仕組みがないと、おっしゃったのはこういうことですね。
- 川村委員 先程の話し合いの中で、さわやかコミュニティというのが出てきたかと思いますが、地域性に特化した中学校区単位で、その地域の中であらゆる団体に声をかけて意見調整する場であり、うちの団体はこういう行事や事業をやっているんで、他にも同じような行事や事業をやっているところがあれば一緒にやりませんかなどといった情報を共有する場として作られた会です。これは地域に特化しているんですけど、印西市全体でこういった形で団体が集まって、意見調整する場があるかというところはありません。今回の社会教育関係団体に絞りましたら、その場を提供するようなものというのは、この場の団体が作らなきゃいけないのかなというのは、正直思ったんですけど、そういうのがあればですが、今おっしゃったような内容のものは解決されるんじゃないかなというふうには思います。
- 小林委員 ふるさと歴史のグループがありますが、地区の子ども対象で観察会をやっています。グループ同士が共同して自発的にやっているんじゃないかと思うんです。それが何か作ってやったら、他のグループと他のグループがつながって、もっと大きな文化共有ができるとか、そういうふうにつながっていくんじゃないかと思います。
- 桜井議長 われわれの大きな役目の1つとして、行政とのパイプ役があります。、それも長尾先生、今までのご経験から今年度はどういうテーマで活動していこうかというのを前回からやっているんですけども、そのあたりご意見ありましたらお願いします。
- 長尾委員 まずご提案をいただいている1つ目と2つ目の調査についての率直な感想なんですけど、もうすでにこの別添の印西市の教育振興基本計画策定のための市民意向の概要で調査をしていますので、ある程度の結果が出ています。そこに加えて、この社会教育委員で、再度ということは、先程小林委員、桜井

議長がおっしゃられたように、質問の方向を絞らないと、受け取ったほうはいろいろなところからアンケートはくるけれども、答えたもののそれがどういふふうに、どんな形になって実現されていくのかというのが見えないと、ただやみくもにアンケートだけをしたのでは、成果が伴わないのかなということなので、質問項目をよく議論をして、できるだけ実のあるものを行政側にご提案できるような形になればいいのかなというふうに思いました。

3つ目の来年度振興大会が印西市で開催されるとの事で、こちらも早めに準備をしていく必要があると思います。

最後にやはり、学校を中心として、家庭とそれから地域が連携をして、さまざまな事業をするということは大事で、特に小学校区、中学校区、私は高等学校ですが、高等学校もその地域に実際にあるわけですので、みんなが手を携えて地域の特性であり、その学校の特性を踏まえた何かいい取り組みができればということで、こうしたほうがよかろうというふうなのが先にあって中身を考えるよりは、まずいろいろなアイデアを出し合って、そこからみんなのできるものを1つずつ積み重ねていくのがいいのかなと思いました。

桜井議長

貴重なご意見ありがとうございました。今のご意見をお伺いして、さらに皆さまのご意見がありましたら。

まとめてみますと、われわれ、最初は39団体なら39団体全体に対して実態調査を試みようということだったんですけども、例えばボーイスカウトだとか、そうふけ公民館利用サークル協議会だとか、ふるさと案内人協会とか、青少も含めて、大きい団体はそれなりにもうやっていて、問題はあろうと思うんですけども、小林委員がおっしゃったみたいな、ここには載っていないような、もう少し小さいという用語弊があるのかもしれないですけども、活躍されているところで問題があるようなところを調べてみるというのも1つですかね。

あと、横のつながりがないので、団体同士が共有できる仕組みづくりをするか。私自身どちらをやっていいか分からないんですけども、皆さんのほうでご意見がありましたらお願いします。

当初の計画だとちょっと大変かなと思います。先程、長尾委員のご意見の中でも、既に結論が出ていて、再度アンケートを実施して、じゃあどういふふうにしてくれるのって言われても、われわれはそれを行政にはこういう実態ですというのを提案はできますが、解決策までは難しいと思います。ちょっと無責任かなと思うところもあります。われわれの役目は市民なり団体と、行政とのパイプ役なんですけれども、こういう実態ですよというのを挙げるだけでいいのかなと。

先程言いましたように、この計画の中の、この中に載っている課題というのは、町内に推進体制を作ってPDCAをやっていくということになってますので、われわれはその経過を見る役割があると思います。

小林委員

ちょっと気になったので。横のつながりを作るんだったら、社会教育団体の代表者会議をやるべきなんじゃないですか。

- 菊地委員 代表者の会議をやるということ、事務局に議長や、社会教育委員から、こういうことを何回かやってみるのも一つの案じゃないですかという提案をし、それと来年度の振興大会の準備を進めるということで、結論が出るまで何回か代表者会議を行い、一つの結論を出せばいいかなと思います。忘れてならないのは来年のことが最重点課題なので、どちらを先に取るということもできないと思うので、議長から1回でもこういう会議を設けてみたいというご提案をしていただいて、かつ大きな団体の悩みですか、小林委員がおっしゃいましたように悩みは必ずあるはずなので、ここで辞めるというような団体さんも解決できるんじゃないかなと思います。
- 小林委員 もう1つの提案ですが公民館の利用です。例えば、小林公民館というのは30ぐらいのサークル活動をやっています。そのサークル活動の意見を集めて、こうしよう、こう改善しようというのはありません。小林祭りがありますが、1年に1回10月に祭りをやるための集まりで各サークルが何をやっているのか、各サークルが何を要望するかってやっていないのが現状です。公民館が主体で、1度そのサークル活動から意見を集めたりしたら、結構出てくるんじゃないかと思います。公民館というのは幾つもあるわけではないので自分たちのサークルの問題点とか、アンケートで出してくれということになれば沢山のご意見が出てくると思います。
- 菊地委員 そういう話もありますね。それが出てきた大きなものをこちらに挙げていただいて、幾つか出てきますよね、代表者さんが一度でもいいから集まって、各団体さんの悩みを、こういうふうに出ているんだよということも挙げていただければ、こちらの社会教育としてのまとまりも分かってくると思います。それを事務局に提案して、一度でもこういう会議をやったらどうですかと。それで皆さんの悩みが解決までにはいかないと思いますが、大きないろいろな団体ですから横のつながりがそこでまたできるかもしれないじゃないですか、会議は当然1回、2回じゃ終わらないと思います。それがつながりというものなんだと思います。一度でも各団体の長の会議をやっていただくというのも1つの案かなと思います。結論が出ない、結論を出そうと思っても出る問題ではないと思います。でも、みんなが集まったときに、話をするということが第一の進歩じゃないかなと思います。議長へ提案をしていただいて、議長が事務局に持って行っていただければ、事務局で、「じゃあ、こうしましょうか」という結論が1つでも出ればいいんじゃないかなと思います。
- 桜井議長 他にご意見がございましたら。
- 川村委員 われわれ青少年相談員は、千葉県に約4,300人おり、必ず各市町村にいますし、印西市でも、現在86名の方がおります。来月には全体研修会という研修があります。各市町村から3名までの青少年相談員と事務局を対象に研修を

行います。任期が1期3年ですから、3年に1回必ずアンケートを実施します。そこでのアンケートの項目は全部一緒なんですけど、次世代を担う人たちの探し方とかそういう問題点を、他市町ではどうしているかをやっていますかみたいな形のアンケートを採りますが、青少年相談員でアンケートの結果を、どこかに解決を求めようとはしません。自分たちで解決しようというふうに考えます。54市町村ありますから、各々の他市町で問題になっているものが自分の市町村では解決されているというケースも非常に多いです。

例えば、印西市の相談員の女性割合が10%ぐらいしかありません。

八千代市では9割以上が女性なんです。男性はほとんどいません。

八千代市は、どうして女性相談員が多く採用されるのかとか情報を持っています。

先程先生がおっしゃったように、全体会を開催したことによって、テーマを持って他市町村で持っている情報なんかも取り入れられれば、非常にいい会になるんじゃないかというふうに思います。自分たちが悩んでいたことが少しでも解決されれば、また辞めなくても済むんじゃないかと思えますし、当然、費用とかお金の問題は団体では解決できないので、市に頑張ってもらわなければならないんですけど、それでもある市町村の青少年相談員では、費用的なものを民間企業からバックアップしてもらって活動しているところもございます。

また、予算が全然ないというところもあります。そういったような話を各団体から聞けると、面白い会になるんじゃないかなと思います。

伊東委員

実は、この野外活動協会がこうやって取り消すということで出されたということは、大きな問題提起ではないかなというふうに思い始めてきました。社会教育団体が高齢化により跡継ぎがいなくなり、なくなっていくということ。

過去には、正月マラソン、親子スキー関係とか、いろいろなことで印西市の広報でもいろいろ取り上げられながら、結構、有名な活動団体だったんですけど、「え、なくなるのかな」なんて、ちょっと私もさみしい思いをしたんですけども、こういう団体がこれから増えていくとなると、非常にこれは由々しき問題だなと感じます。

ある意味各団体が諸事情により活動ができなくなりましたよっていったときに、市として、これをどんなふうじゃあ支援をしてみようかとか、今回この取り消しの届け出が出たときに、何かしらの支援策とか、そういったものがあつたかどうかということがまず1つと、そうならないために、いま出た横のつながりの代表者会議ですかね、情報交換しながら何かバックアップ体制が取れるかだとかという、そういったものができないかとかという、事務局とそれからボランティア団体というか、こういった団体同士の支援策の形となるといういろいろな縦から横から必要になってくるのかなというのがあります。

これからは高齢者が増えていくわけですから、逆に言うと下が入ってきそうなものなんだけれども、いらっしゃらないということも、やっぱり周知されていなかったのか、理解者をどうやって増やしていくのかとか、そんなのを、じゃあどうしたらそれが実現していくのかという話し合いも必要なかなと思えますし、こういった問題が出たときの経緯とか、分からないので知りたいです。

桜井議長 ありがとうございます。じゃあ、後ほどその他のところでもう1度詳しく説明していただきますね。

長尾委員 参考までに私は県の教育委員会に通算15年ぐらい勤務してまして、そのうちの平成19、20、21の3年間は、県の生涯学習課というところで、19年に新しく組織改編でできた学校・家庭・地域連携室というところに配属になりました。

そのときに、私は放課後子ども教室の担当で、文科省に何度も足を運んで、当時、55市町村の生涯学習、社会教育関係課のご担当の方にお集まりいただいて説明を実施し、20年には、学校支援地域本部事業というのも文科省事業でやりました。

木更津市と野田市では、こういった社会教育団体が、年に1度、一同に介してその成果の発表会であったり、ワークショップ形式でそれぞれ集まって、それぞれが抱えている課題を出し合ったりというふうなことをやっていました。当時そこに招かれて、実際に県の教育委員会の立場として少しお話をさせていただいた経緯があります。

実際に、事務局は、本当に多忙なので、それをすぐにできるかどうかは別なんですけれども、委員の皆さんのご意見を聞いていると、やはりこの社会教育団体の代表者会議ですとか、あるいは何か横のつながりを深めていくために、何らかのアクションを起こすとすれば、そういった団体の人たちにお声がけをして、皆さんの持っている課題なんかを話し合うような場面を設定してあげると、いろいろな課題が浮き彫りになって、また課題解決のためのさまざまな知恵をいろいろな角度から出していただいているというふうなことも絡み合ってくるんじゃないかなというふうに思ったので、参考までに今、当該市の許可も得ないで、木更津市と野田市、勝手に言ってしまいましたけれども、実際その場に私行きましたので、こういう素晴らしい会もあるんだなという当時印象を持ったものですから、ご紹介をさせていただきました。

桜井議長 ありがとうございます。その他ご意見ありますか。

恩田委員 女性の会なんですけれども例年5月に総会を行っております。ただ総会だけだとなかなか会員さんが集まりにくく、何か他に一緒に出来る事がないかなと考え毎年総会後に講演会を行っています。最初の頃はリサイクルセンターの方を呼んで、ごみの捨て方、分別の仕方とかというのを皆さんに教えていただきました。次は何をやりましょう、次々にいろいろな課題がありました。今年度は篠原委員のサークルにお願いしまして素話をさせていただきました。

そういうグループ、サークルがあるのは知っていた方や、お友だちもいらっしやっただと思うんですけれども、総会で集まった方がお聴きしまして、すごく感動しました。「じゃあ、今度、自分たちも会とか関係なく聴きに行こうよ」とか、「どういうふうにしたら聴かせていただけるのかしら」などと話が出ましたので、やはり公民館活動でも横のつながりの大事さを感じ、まだまだ知らない活動がたくさんあるんだなと思いました。

だから横のつながり、横のグループの活動を知るというのは、とても大事な
など改めて思いました。

篠原委員

女性の会の方に声をかけていただいたのは、広報の裏のほうに、私たちの活
動について載せていただいたことがきっかけだったと思うんですね。それ
で、呼んでいただいて、お話を聴いていただいたんですけど、この前、中央
公民館ではみなづき祭が行われたんですけれども、そのときはもう女性の会
の方にお弁当を作りに来ていただいたりして、後援していただいています。
また、明誠高校の生徒さんにも来ていただいて、いんザイ君の中に入ってい
ただいて、盛り上げていただいたりしているんですね。また、保育園とか、
幼稚園とか、学童クラブとか、高齢者クラブとか、印西音頭保存会ですとか、
ああいう方にも声をかけて、こちらの中央公民館のみなづき祭は盛り上がら
ないことが本当に、人が集まらないことが悩みだったんですけど、そういう
ふうにサークル、懇談会を通じて、どうしたら人が集まるだろうか、サーク
ルも減っている中で、毎回、毎週、事前に話し合いを重ねて、また後援もい
ただいて、今年はたくさんの人に来ていただきました。やっぱりそういった
横のつながりというのは、地域を活性化させるし、やるほうのサークルにつ
いてもすごい力になりました。この場を借りましてありがとうございます。

桜井議長

ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。
そろそろ時間が迫ってきましたのでまとめたいと思うんですけれども、先程
伊東委員のご意見の中にも、辞めなきゃいけないところを、横のつながりが
あったらもしかすると辞めなくて済んだかもしれないというご意見や、長尾
委員の成果を発表する場所だとか、ワークショップなんかを考えてみてもし
いかかもしれないという大変貴重なご意見を頂きました。
今日のところは、実態調査の1つ先にいって、この調査結果を踏まえた上で、
横のつながりができるような仕組みを考えて、市に提案するというようなと
ころでよろしいでしょうか。
次回のこの委員会は、11月の予定になっております。その前に自主勉強会
を開いて、更に皆さんのご意見を集約してまとめていきたいと思しますので、
よろしくご協力の程お願いいたします。
長時間にわたって、貴重なご意見、大変ありがとうございました。以上を持
ちまして、すべての議事が終了いたしました。
慎重審議にご協力ありがとうございました。

使用した資料

平成30年度 第1回 印西市社会教育委員会議 資料
市立公民館平成30年度事業計画概要
印西市社会教育関係団体の認定基準に関する規程
印西市教育振興基本計画「生涯学習編」「文化芸編」関係団体意向調査希望団体
社会教育関係団体認定取消申請書

平成30年度 第1回 印西市社会教育委員会議の会議録は、事実と相違ないので、当会は、これを承認する。

平成30年9月14日

印 西 市 社 会 教 育 委 員 会 議

署名委員 川 村 英 雄